

専門科目 社会行動科学

(専門職学位課程)

科目名	終末期医療実習	code number : HBS 310	選択	1 単位
-----	---------	--------------------------	----	------

科目責任者	石川 ひろの 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏期	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

1. 授業の概要

高齢社会は多死社会でもあり、増え続ける看取りの受け皿の確保が課題となっている。厚生労働省は2018年3月、「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を約10年ぶりに改訂し公表した。人口の高齢化に伴う、在宅および介護施設における看取りの需要拡大を踏まえ、多職種による医療・ケアチームで本人と家族を支えることや、本人と家族、多職種チームが人生の最終段階の医療とケアについて事前に繰り返し話し合う「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」の概念が盛り込まれている。終末期医療や地域包括ケアの臨床現場における実習を通じて、人生の最終段階にある人とその家族に対して、尊厳ある人生を完結できるように支えるためには、医療者あるいは公衆衛生専門職としてどのような援助をしたら良いのか、について学習する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 地域包括ケアシステムについて、その背景、システム、意義を理解する。
2. 在宅や高齢者施設、療養病床での看取りの現状を把握し、地域包括ケアにおける看取りの位置づけを理解する。
3. 人生の最終段階における医療・ケアのあり方について理解する。

【行動目標(SBO)】

1. 在宅や高齢者施設、療養病床での看取りの現状と問題点を説明できるようになる。
2. 国民が望む場所において看取りを行っていくためには、何が必要なのか提示できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 実習先での講義や実習への参加態度 (50%)
 - (2) 講義や実習に関するレポート・報告 (50%)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は、原則として減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

・特に指定しない

5. 参考書

- ・苛原実『独居看取りの時代～在宅医が考える心豊かな「独り死」』 ヒポサイエンス出版 2016年
- ・公益社団法人 全国老人保健施設協会『介護白書 -老健施設の立場から- 平成30年』 TAC出版 2018年
- ・共同通信生活報道部『ルポ 最期をどう迎えるか』 岩波書店 2018年
- ・NHKスペシャル取材班『老衰死 大切な身内の穏やかな最期のために』 講談社 2016年
- ・田中美穂、児玉聡『終の選択: 終末期医療を考える』 勁草書房 2017年
- ・石飛幸三『「平穏死」のすすめ 口から食べられなくなったらどうしますか』 講談社文庫 2013年
- ・萬田緑平『穏やかな死に医療はいらない』 朝日新聞出版 2013年
- ・会田薫子『延命医療と臨床現場 -人工呼吸器と胃ろうの医療倫理学』 東京大学出版会 2011年

6. 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間

- ・上記の参考書を事前に読むなどして、実習で学びたいことを明確にしておくこと。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ※尚、授業日時については、夏季休業前に本科履修希望者と指導担当教員にて個別に設定する。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

終末期医療実習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	個別設定		白山 裕士 講師(非)	※実習日時・実習先(下記から選択)については、夏季休業前に本科目履修希望者と指導教員にて個別に設定する。 I. 在宅療養支援診療所での実習 ・訪問診療の同行実習 ・訪問看護ステーション、訪問リハビリテーションへの同行 ・希望があれば、以下に関するレクチャーも可能 (プライマリ・ケアおよび在宅医療全般、福祉制度・介護保険制度および関連施策、虐待事例対応 等) II. 医療療養型病院での実習 III. 介護老人保健施設での実習 ・日常業務への同行、カンファレンス・申し送りへの参加 ・リハビリテーション見学 ・同意が得られたご本人・ご家族との医師面談に同席 ・意思決定支援の実際について解説 ・診療報酬・介護報酬の解説
2			白山 裕士 講師(非)	
3			白山 裕士 講師(非)	
4			白山 裕士 講師(非)	
5			白山 裕士 講師(非)	
6			白山 裕士 講師(非)	
7			白山 裕士 講師(非)	
8			白山 裕士 講師(非)	